

05 職場意識でリモハラを防ぐ（働く人の人権）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもとこがお届けします。

5

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の対策や、育児・介護との両立を支える手段として、リモートワークの活用が進んでいます。働き方改革の一環として今後も広がりが見込まれますが、職場から離れて自宅で仕事をする一方で、新たなトラブル、リモートハラスメント（リモハラ）が起きています。

10

例えば、就業時間はずっとパソコンのカメラをオンにすることを強要される、一日に何度も業務報告をさせられる、といった上司からの過度な監視が挙げられます。また、就業時間があいまいになり、夜遅くまでのオンライン会議や、休日のメールのやり取りを強いられることもあります。

15

セクハラにつながる問題も増えています。画面に映った部屋の様子や趣味についてしつこく尋ねる、オンライン会議の後に、上司が部下の女性を「これから一緒に飲もう」と一方的に誘うなど、労働相談コーナーにはさまざまな事例が報告されています。

20

他にも、一人だけ必要な情報を知らせない、会議のURLを送らないなど、リモートでのいじめもあります。

25 リモハラが起こる背景について、社会保険労務士の高橋美紀さんは、次のように話しています。

30 【高橋さん役】職場であれば周囲の目があり、自然と理性が働くのですが、仕事とプライベートの線引きがあいまいになり、パワハラやセクハラが起こりやすくなってしまっているのです。立場の上下に関わらず、人の尊厳は守られなければいけません。どんなときも画面の向こう側には感情を持った人間がいることを、忘れないことが大切です。

35 (ナレーター) 仕事上のハラスメントは、当事者だけの問題ではなく、会社全体の問題です。研修の実施、相談窓口の設置など、ハラスメント防止のために対策を行うことは、法律で定められた会社の義務です。情報を共有し、ルールを整備することも大事です。

40 閉鎖的な空間で行われるリモハラは、周囲の人が気づかずに問題がエスカレートする傾向があり、注意が必要です。たとえ自宅であろうと、リモートでつながれば、そこは「職場」である、という意識をしっかりと持つようにしましょう。

45 (本文896字)